

氏名	分担	職業(当時)
石田松蔵	委員長。古代・中世	豊岡市教育委員長
梅谷光信	近世前半	石田ひさや書店主
井上義次	近世・近現代(商工・流通経済)	弁護士。但馬史研究会会長
岡弘	近世(漁業)・近現代(軍事)	豊岡実業高等学校教諭
瀬戸谷皓	考古	豊岡実業高等学校教頭
萩原一郎	近世・近現代(文化・教育)	豊岡市教育委員会主事
		城崎町教育長

## あとかぎ

—市史編集日記に代えて—

昭和五十二年、当時の橋本省三市長は三年後に迎える市制三十周年記念事業のひとつとして『豊岡市史』の刊行を発案された。その年の四月、石田松蔵氏(『但馬史』1〜3など著書多数)の下で市史構想と執筆委員の構成に着手することで市史編集作業が始められた。

同年七月五日、初の豊岡市史編集委員会を開催した。委員構成は次の通りであるが、分担は後日変更後のものである。

服部 弘	地形・地質	但東町教委社会教育指導主事
前嶋雅光	近世後半・近現代前期	兵庫県史編集担当参事
山口久喜	近世・近現代(宗教・環境)	豊岡実業高等学校教諭

市史執筆の手段としては、次の方法を探ろうとした。

1、『校補但馬考』『豊岡誌』をはじめ、三江・奈佐・神美・港・五荘の各村史(誌)や『但馬史』全5巻

など既刊の史書の成果に依存する。

2、それを補完する程度で藩政史料や村方・町方史料を採訪調査する。

さて、調査活動を始めて見ると鳥井家「公私之日記」(すでに石田松藏氏によって多くが解明されていた)

以外にも、由利九十郎家「公私之日記」類や舟木家の豊岡藩諸記録、岡家・松井家・伊地智家・足立家・渡辺家・三宅家・瀬戸村・津居山村などの村方諸記録を随所で見せていただくことになる。

貴重な史料が山積する中で、石田委員長をはじめ委員会内部から、他の市町にくらべ余りに簡易な市史とすべきではない、まして通史一巻だけで現代までを記述することは分量的にも時間的にも無理がある、とす意見が出はじめた。よって五十四年春、通史は上・下二巻とし、史料編は後日検討することになった。

ところが、ここに思いがけぬ変事が起きた。昭和五十五年三月二十九日、石田委員長が病歿されたのである。しかし、委員長が執筆分担された古代・中世の原稿はほとんど完成していて、専修大学文学部(当時、佐賀大学)大田順三教授が校訂してくださった。

委員長は梅谷光信委員が引継がれた。

昭和五十六年七月上旬、市史（通史）上巻が完成。印刷・製本は以後、この史料編下巻にいたる四巻が日本写真印刷(株)によるものである。橋本市長は、でき上った通史上巻の一冊を押し戴くようにして喜ばれた。その七月、橋本市長は体調をくずされて市長を退任され、しかも十一月には逝去された。

通史下巻（近現代編）の執筆にあたり、新たに次の二委員を補充した。

氏名	分 担	職 業（当時）
伊藤之雄 中尾健二	政治・民衆運動 漁業・民俗	京都大学歴史研究室 県立香住高等学校教諭

通史下巻は、平尾源太夫市長の二期目の昭和六十二年三月に刊行された。

親しみやすいことを目標とした通史とは別に、学究的要素が付加された史料編上・下二巻の発刊が後に続くことになった。

当時、「豊岡市史文書目録」に登載された文書類所蔵の家・旧村・学校等の総数は約一三〇で、収録文書数は一万件を超えていた。この膨大な史料の中から何をどれだけ選び出すかが課題であった。

このとき、委員（考古担当）に市教委・潮崎誠主事を補充した。

幸いなことに、古代・中世分野の監修を京都大学文学部・大山喬平教授が引き受けてくださり、史料編の

信頼度を高めることができた。

また、近世古文書の解説には、豊岡「古文書を読む会」の協力を得ることができた。

史料編上巻は平成二年七月、下巻は平成五年二月に刊行された。

昭和五十二年に発足以来、年号も平成と改って、その五年初頭に完結する『豊岡市史』全四巻——この間、巨額の市費と十六年間もの歳月を費したが、不備な点多々ある。民俗学分野はほとんど触れずに終ったし、行政・経済・文化等、どの分野でも書き足らなかつたとする思いが残されている。いつの世代にか、より優れた市史が再刊されることを願ってやまない。

おわりに、橋本省三元市長・平尾源太夫前市長・今井晶三現市長はじめ関係各位、史料提供やご指導・ご支援を賜った方々、広く市史を購読くださっている皆さん、日本写真印刷㈱に謝意を捧げます。

平成五年二月

豊岡市史編集室主任 小谷茂夫

市史編集関係者（現職）及び『史料編下巻』執筆分担

古代・中世 監修	大山喬平	京都大学文学部教授	
前 委員長	故 石田松蔵	石田ひさや書店主	
委員長	梅谷光信	弁護士 但馬史研究会会長	
委員	井上義次	元県立豊岡 実業高等学校教諭	一(3), 三(1), 四(1)
委員	伊藤之雄	名古屋大学 文学部助教授	二(4), 四(3)
委員	岡 弘	元県立香住高等学校校長	二(3)
委員	潮崎 誠	豊岡市教育委員会 主事(文化財担当)	考古編
○委員	瀬戸谷皓	豊岡市立郷土資料館長	考古編
委員	中尾健二	県立盲学校教頭	三(3)
委員	萩原一郎	元城崎町教育長	五(1~10)
委員	服部 弘	県教委但馬教育事務所 指導主事	
委員	前嶋雅光	親和女子大学教授	一(1)
委員	元木泰雄	大手前女子大学助教授	
○委員	山口久喜	兵庫県文化財保護 管理指導委員	一(2, 4), 四(2, 4~6)
○委員	小谷茂夫	豊岡市史編集室主任	一(5, 6), 二(1, 2), 三(2), 地名

○印は史料編下巻編集担当。執筆分担の「三(1, 2)」は第三編第1章, 第2章の執筆を示す。

豊岡市史担当事務局（史料編下巻編集期間＝平成2年4月以降）  
 企画部部长 原田 寛 秘書広報課長 塚本信行  
 担当係長 中奥 薫 主任 樋口ゆり子 編集員 隆辻幸枝  
 古文書解読協力 古文書を読む会（豊岡市公民館内）



---

豊岡市史 史料編 下巻

平成5年2月28日 発行

編 集 豊岡市史編集委員会

発 行 豊 岡 市

印 刷 日本写真印刷株式会社  
製 本 京都市中京区壬生花井町3

---

